

別記様式（第7条関係）



令和8年4月21日

四万十市議会議長 宮崎 努 様

会派名 市民クラブ  
経理責任者名 川村 真生



令和7年度政務活動費収支報告について

四万十市議会政務活動費の交付に関する条例第7条第1項に基づき、別紙のとおり  
令和7年度政務活動費収支報告書を提出します。

別紙

令和7年度政務活動費収支報告書

会派名 市民クラブ

1 収入  
政務活動費 1,440,000円  
決算利息 1,920円/

2 支出 804,660円

(単位：円)

項目	金額	備考
調査研究費	令和7年11月11日～13日 東京都内 計：804,660円	・尾崎正直衆議院議員による講演会 ・文部科学省との勉強会 ・東京都港区での行政視察 ・CCCとの意見交換会とシェアラウンジ見学 ・そなエリア東京での防災体験学習と館内見学
研修費		
広報費		
広聴費		
要請・陳情活動費		
会議費		
資料作成費		
資料購入費		
人件費		
事務所費		

3 残額 637,260円

(注) 備考欄には、主たる支出の内訳を記載する。



5

## 普通預金(兼お借入明細)

— 印字のあるものは  
お借入残高です

年月日	摘要	お支払金額	お預り金額	残引残高
1 4- 5-20	繰越			¥660,000*
2 D 4- 9-18	決算利息	4- 9-17マテ"	3	¥660,003*
3 4-11- 4		200,000		¥460,003*
4 D 5- 3-19	決算利息	5- 3-18マテ"	2	¥460,005*
5 5- 3-28		2,821		¥457,184*
6 5- 3-28		2		¥457,182*
7 5- 3-28			2	¥457,184*
8 5- 3-30		457,184		¥0*
9 D 5- 4-25	振込入金	シマントシケイカシ	540,000	¥540,000*
10 5- 7- 4		200,000		¥340,000*
11 5- 7-21		50,000		¥290,000*
12 D 5- 9-17	決算利息	5- 9-16マテ"	1	¥290,001*
13 D 6- 3-17	決算利息	6- 3-16マテ"	1	¥290,002*
14 6- 3-29			16,220	¥306,222*
15 6- 4- 9		306,222		¥0*
16 D 6- 4-25	振込入金	シマントシ	1,440,000	¥1,440,000*
17 6- 6-28		440,000		¥1,000,000*
18 D 6- 9-22	決算利息	6- 9-21マテ"	121	¥1,000,121*
19 7- 1-27		40,000		¥960,121*
20 D 7- 3-16	決算利息	7- 3-15マテ"	402	¥960,523*
21 7- 3-31		14,576		¥945,947*
22 D 7- 4-24	振込入金	シマントシ	1,440,000	¥2,385,947*
23 7- 4-30		945,947	R6年度返金	¥1,440,000*
24 D 7- 9-21	決算利息	7- 9-20マテ"	1,165	¥1,441,165*

※証券口座入会の場合は摘要欄表示の翌営業日以降払戻しか  
てきません。

※摘要欄に「\*A D\*」、「\*C D\*」等の「\* \*」のついた  
取引については再記載いたします。

5



6

## 普通預金(兼お借入明細)

---印字のあるものは  
お借入残高です

年 月 日	備 考	お支払金額	お預り金額	金 引 残 高
1 7- 9-21	繰越			¥1,441,165*
2 7-11-17		780,000		¥661,165*
3 7-11-17		2,810		¥658,355*
4 7-11-17		2,810		¥655,545*
5 7-11-17		2,810		¥652,735*
6 7-11-17		2,810		¥649,925*
7 7-11-17		2,810		¥647,115*
8 7-11-17		2,810		¥644,305*
9 D 8- 3-22	決算利息	8- 3-21付"	755	¥645,060*
10 8- 4-17		7,800	11月10日お預り立替分	¥637,260*
11				
12				
13				
14				
15				
16				
17				
18				
19				
20				
21				
22				
23				
24				

※証券類ご入金の場合は摘要欄表示の証券業日以降払戻しか  
できません。

※摘要欄に「\*AD\*」、「\*CD\*」等の「\* \*」のついた  
取引については有記帳いたします。

6

政務活動記録簿

整理番号NO. 1

会派名・代表者名 市民クラブ 寺尾 真吾



年月日	令和7年11月11日（火）から 令和7年11月13日（木）			
場 所	1 衆議院第一議員会館918会議室 ①大学と地域が連携して地域課題解決に向け取り組んでいる官学連携の事例 ②高市内閣の目指すもの 2 東京都港区役所 全国連携の港区 3 TSUTAYA BOOKSTORE MARUNOUCHI TSUTAYA T-SITE(シェアラウンジ)の施設概要の説明と館内見学、意見交換会 4 防災体験学習施設 そなエリア東京 地震防災体験と館内見学			
相手方	1 衆議院第一議員会館 918会議室 【自由民主党】 衆議院議員 内閣官房副長官 尾崎 正直 様 【文部科学省】 科学技術・学術政策局 産業連携・地域振興課長 国分 政秀 様 科学技術・学術政策局 産業連携・地域振興課 拠点形成・地域振興室 室長補佐 玉井 利明 様 【尾崎正直事務所】 私設秘書 芝 様、石神 様 2 東京都港区役所 港区企画経営部企画課 全国連携推進担当係長・企業連携推進担当係長 兼務 企画担当係長 兼務 杉山 和寛 様、議会事務局 堀川 様 3 TSUTAYA BOOKSTORE MARUNOUCHI 【カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社】 SHARE LOUNGE事業本部 本部長 川口 彩 様、部長 渡邊 匠 様、部長 仲宗根 亮 様、 SHARE LOUNGE事業本部 事業企画部 出店・営業企画 中村 智也 様 4 防災体験学習施設 そなエリア東京 地震防災体験と館内見学			
参加者氏名	下記、令和7年度市民クラブ政務活動報告書No.1にて記載			
目的・内容・結果等	下記、令和7年度市民クラブ政務活動報告書No.1にて記載			
上記活動に要した経費	行き先	利用交通機関	積算	金額（円）
	高知空港(往復)	財政課バス		
	宿泊費	780,000円	内訳：宿泊代+往復航空券(6名分)	
	電車代	16,860円	内訳：領収書等貼付用紙を参照(2,810円×6名分)	
	お土産代	7,800円	内訳：領収書等貼付用紙を参照(公明党と按分)	
			※お土産代合計は9,750円。市民クラブ8名、公明党2名の計10名のため1人当たり975円で計算	
	合計金額	804,660円		
備考	市民クラブの参加者は6名であったが、会派は8名であるため、お土産代の按分は8名分で計算			

\*結果等についてスペースが足りない場合は、別途報告書を添付すること。


## 領収書等添付一覧

【令和7年度】

項目名	調査研究費	月 日	支 出 内 容	支出額 (円)	領収書 の有無	整理番号	
						活動記録	貼付用紙
11/10	お土産代	7,800円 /	有・無	1	1-1		
11/11	電車代（羽田空港第1・第2ターミナル⇒新橋⇒溜池山王）	3,600円 /	有・無	1	1-2		
11/12	電車代（永田町⇒御成門）	1,740円 /	有・無	1	1-2		
11/12	電車代（御成門⇒大手町）	1,080円 /	有・無	1	1-2		
11/12	電車代（大手町⇒赤坂）	1,080円 /	有・無	1	1-2		
11/13	電車代（永田町⇒有明）	2,640円 /	有・無	1	1-2		
11/13	電車代（有明⇒市場前）	1,140円 /	有・無	1	1-2		
11/13	電車代（市場前⇒有明⇒国際展示場⇒天王洲アイランド⇒羽田空港第1ターミナル）	5,580円 /	有・無	1	1-2		
11/17	宿泊代・往復航空券	780,000円 /	有・無	1	1-3		
			有・無				
			有・無				
			有・無				
			有・無				
			有・無				
			有・無				
			有・無				
			有・無				
合計		804,660円					

※領収書等貼付用紙の表紙として使用します。

領収書等貼付用紙

項目	調査研究費	整理番号	1-1
【領収書・その他証拠書類 貼付欄】		(支出年月日)	令和7年11月10日
<p>領 収 証</p> <p>様</p> <p>¥9,750-</p> <p>現計 (消費税等)</p> <p>上記正に領収しました (消費税等 ¥725-を含みます)</p> <p>サンリバー四万十 物産館 〒787-0015 高知県四万十市右山383番地7 TEL (0880) 34-5551</p> <p>※保管上のお願い ※必ず保管載く場合、印刷面を内側に折って保管願います。</p> 			
使途・事業名等	お土産代		
按分率等 (按分による支出の場合)	合計：9,750円÷10名(市民クラブ8名+公明党2名)=975円(1人当たり) 【市民クラブ】975円×8名=7,800円 【公明党】975円×2名=1,950円		
その他	市民クラブの参加者は6名であったが、会派は8名であるため、お土産代の按分は8名分で計算		

※領収書等貼付用紙の表紙として使用します。

領収書等貼付用紙

項目	調査研究費	整理番号	1-2
【領収書・その他証拠書類 貼付欄】		(支出年月日)	令和7年11月11日～11月13日
<p>羽田空港第1・第2ターミナル ⇒ 新橋 ⇒ 溜池山王までの電車代の領収書がありません。                      電車代は3,600円で間違いありません。                      ※1人600円</p> <p style="text-align: right;">会派代表者 寺尾 真吾 </p>			
<p>永田町 ⇒ 御成門までの電車代の領収書がありません。                      電車代は1,740円で間違いありません。                      ※1人290円</p> <p style="text-align: right;">会派代表者 寺尾 真吾 </p>			
<p>御成門 ⇒ 大手町までの電車代の領収書がありません。                      電車代は1,080円で間違いありません。                      ※1人180円</p> <p style="text-align: right;">会派代表者 寺尾 真吾 </p>			
<p>大手町 ⇒ 赤坂までの電車代の領収書がありません。                      電車代は1,080円で間違いありません。                      ※1人180円</p> <p style="text-align: right;">会派代表者 寺尾 真吾 </p>			
<p>永田町 ⇒ 有明までの電車代の領収書がありません。                      電車代は2,640円で間違いありません。                      ※1人440円</p> <p style="text-align: right;">会派代表者 寺尾 真吾 </p>			
<p>有明 ⇒ 市場前までの電車代の領収書がありません。                      電車代は1,140円で間違いありません。                      ※1人190円</p> <p style="text-align: right;">会派代表者 寺尾 真吾 </p>			
<p>市場前 ⇒ 有明 ⇒ 国際展示場 ⇒ 天王洲アイル ⇒ 羽田空港第1ターミナルまでの電車代の領収書がありません。                      電車代は5,580円で間違いありません。                      ※1人930円</p> <p style="text-align: right;">会派代表者 寺尾 真吾 </p>			
使途・事業名等	電車代		
按分率等（按分による支出の場合）			
その他	2,810円(1人当たり3日間)×6名分=16,860円		

※領収書等貼付用紙の表紙として使用します。

領収書等貼付用紙

項目	調査研究費	整理番号	1-3
【領収書・その他証拠書類 貼付欄】		(支出年月日)	令和7年11月17日
<div data-bbox="151 728 1452 1377" style="border: 1px solid blue; padding: 10px;"> <p style="font-size: 24px; font-weight: bold;">領 収 証</p> <p style="font-size: 24px; font-weight: bold; color: blue;">市民クラブ</p> <p style="font-size: 24px; font-weight: bold; color: blue;">様 No. 7</p> <p style="font-size: 24px; font-weight: bold; color: blue;">¥780,000*</p> <p>但 航空券、宿泊代として</p> <p>入金日 R7年 11月 17日 上記正に領収いたしました</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 40%;"> <p>内訳 _____</p> <p>税抜金額 _____</p> <p>消費税額等 (10%) ¥70909-</p> </div> <div style="width: 50%; text-align: right;"> <p>〒787-0014 高知県四万十市駅前町7-1</p> <p><b>株式会社 四万十トラベル</b></p> <p>TEL 0880-34-9360 FAX 0880-34-9361</p> <p>登録番号 T8490001007293</p> </div> </div> </div>			
使途・事業名等	宿泊代+往復航空券(6名分)		
按分率等 (按分による支出の場合)			
その他			

※領収書等貼付用紙の表紙として使用します。

## 令和7年度 市民クラブ政務活動報告書 No.1

### 【視察日程】

令和7年11月11日(火)～13日(木) ※四万十市とは12日(水)午前まで同行

### 【研修会場1】衆議院第一議員会館918会議室

①大学と地域が連携して地域課題解決に向け取り組んでいる官学連携の事例

②高市内閣の目指すもの

### 【研修会場2】東京都港区役所

全国連携の港区

### 【研修会場3】TSUTAYA BOOKSTORE MARUNOUCHI

シェアラウンジの施設見学とカルチャ・コンビニエンス・クラブ株式会社の事業概要説明

### 【研修会場4】防災体験学習施設 そなエリア東京

防災体験学習と館内見学

### 【参加者】

○四万十市

#### 【環境生活課】

平地 義伸(ヒラチ ヨシノブ) [課長補佐]

#### 【企画広報課】

田中 佑典(タナカ ユウスケ) [企画調整係長]

#### 【農林水産課】

篠田 匠一(シノダ ショウイチ) [林業水産係長]

#### 【子育て支援課】

浦田 真輝(ウラタ マサキ) [保育係長]

#### 【学校教育課】

田中 祥平(タナカ ショウヘイ) [学校教育係長]

#### 【生涯学習課】

伊豆 綾人(イズ アヤト) [社会教育振興係長]

#### 【総務課】

但馬 僚人(タジマ リョウト) [秘書係主幹]

#### ○市民クラブ

寺尾 真吾(テラオ シンゴ) [会派代表]

前田 和哉(マエダ カズヤ) [会派副代表]

平野 正(ヒラノ タダシ)

上岡 真一(カミオカ シンイチ) [四万十市議会副議長]

川村 真生(カワムラ マサナリ)

鳥谷 恵生(トリヤ ケイセイ)

#### ○公明党

山下 幸子(ヤマシタ ユキコ) [会派代表]

澤良宜 由美(サワラギ ユミ)

合計:15名

1-① 衆議院第一議員会館918会議室

【研修日時】

令和7年11月11日(火) 14:00~15:00

【研修場所】

衆議院第一議員会館918会議室(住所:〒100-8981 東京都千代田区永田町2丁目2-1)

【講師】

[文部科学省]

科学技術・学術政策局 産業連携・地域振興課長 国分 政秀 様

科学技術・学術政策局 産業連携・地域振興課 拠点形成・地域振興室 室長補佐 玉井 利明 様

【目的・内容】

高知大学との「しまんと海藻エコイノベーション共創拠点(通称しまのば)」を推進するにあたり、全国の大学と地域が連携して地域課題解決に向け取り組んでいる官学連携の事例を学び、地域住民とともに所管の枠組みを超えた「しまのば」の推進につなげる。

【報告者】

鳥谷 恵生

【報告内容】

1. 共創の場形成支援プログラム(COI-NEXT)の概要

本プログラムは、国連の持続可能な開発目標(SDGs)に基づき、「未来のありたい社会像」(ビジョン)を起点としたバックキャスト手法による研究開発を支援するものである。

①3つの変革:「人が変わる」「大学が変わる」「社会が変わる」ことを目指し、産学官が一体となった自立的・持続的な拠点を形成する。

②支援分野:「共創分野」「地域共創分野」「未来共創分野」「政策重点分野」の4つで構成されている。

③現状:令和7年11月時点で、全国に本格型拠点35拠点、育成型拠点6拠点が展開されている。

(ご説明をいただいた文部科学省の皆様)



## 2. 産学官共創拠点の事例

今回の視察では、他地域の先進事例についても共有を受けた。

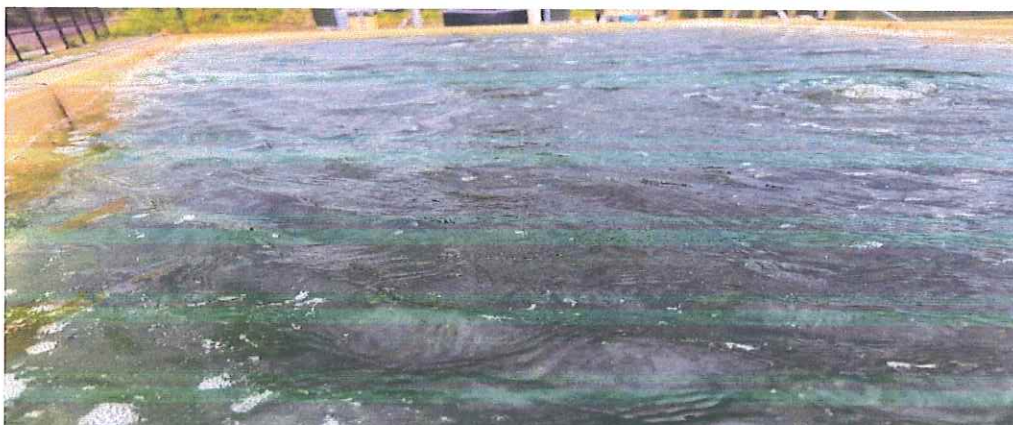
拠点名	大学	主な取組内容
カーボンネガティブ 炭素耕作拠点	東京農工大学	イネや木材、藻類による炭素固定を主軸に、燃料や材料への変換技術を開発。59 機関が参画し、地域モデル構築を推進。
瀬戸内海創生拠点	香川大学	藻場消失や資源減少に対し、デジタル技術を活用した次世代型手法(スマート養殖等)への転換と、循環経済の構築を目指す。

## 3. しまんと海藻エコイノベーション(しまのぼ)について

今回の視察の目玉である、高知大学が主導するプロジェクト。

- ①ビジョン:地球温暖化で失われた四万十川のスジアオノ等の海藻産業を、世界トップクラスの養殖・変換技術で復活させ、新たな地域産業(食品、化粧品や飼料等)を創出することを目指している。
- ②参画機関:代表機関の高知大学のほか、四万十市、高知県、理研食品(幹事機関)などが強固なパートナーシップを組んでいる。
- ③これまでの成果:
  - ・5年ぶりに四万十産アオノリが復活し、加工食品の販売も開始された。
  - ・四万十市内に「海藻教育研究拠点」を開設し、大学誘致という地域の悲願を一部実現している。
  - ・渋谷のスタートアップ拠点とも連携し、400社以上の企業と交流を図っている。

(写真は株式会社加用物産様の青のり陸上養殖施設見学時のもの)



#### 4. 今後の展望と課題

今回の意見交換を通し以下の事を

##### 1. 「大学の存在感」の重要性:

高知県内では、若者の6.3人に1人が高知大学の学生である。2040年には「4人に1人」になると推計されており、大学はもはや単なる教育機関ではなく、地域の存続に不可欠な「知の拠点・人材育成の拠点」であることを痛感した。

##### 2. 地域産業の振興:

四万十市にとって、青のり・アオサノリは長きにわたって親しまれてきた産業であり文化の一つであったが、気候変動により天然物は激減している現状がある。

陸上養殖技術によって、再び市の産業として復活していきていることに期待をもっており、ぜひとも研究が本格型に移行し、しっかりとした研究費をもらって「しまんと海藻エコイノベーション共創拠点」が発展することを願いたい。

##### 3. 販路の確保:

「研究のための研究」に終わらず、実際に陸上養殖されたアオノリが商品化され、地域経済が動き出している点が素晴らしいと思う一方、青のり自体の消費量はそれほど多くないため、産業としての規模拡大をしていく上では、販路開拓は必要不可欠であり、しっかりとしたサポート体制が必要だと感じた。

## 1-② 衆議院第一議員会館918会議室

### 【研修日時】

令和7年11月11日（火）15:00～16:15

### 【研修場所】

衆議院第一議員会館918会議室(住所：〒100-8981 東京都千代田区永田町2丁目2-1)

### 【講師】

自由民主党 衆議院議員 官房副長官 尾崎 正直 様

### 【目的・内容】

高市内閣の目指すものを尾崎正直官房副長官から学習する機会を与えて頂き、所信表明演説のポイントを学ぶこと。

### 【報告者】

上岡 真一

### 【報告内容】

#### ①経済財政政策の基本方針として、

「経済あつての財政」であり、強い経済を構築するために「責任ある積極財政」の考えの下、「積極的に財政出動」を行う。

#### ②物価高対策として、

ガソリン税等の暫定税率、診療報酬・介護報酬、国・地方自治体から民間への請負契約、中小企業・小規模事業者、重点支援地方交付金・電気ガス・料金支援、103万円の壁を今年末調整では160万まで対応、高校無償化・給食費無償化、給付付き減額控除等、速やかに対策を取りまとめ、必要な補正予算を協議する。

#### ③経済成長戦略として、

「日本成長戦略会議」を立ち上げ、世界共通の課題解決に資する製品・サービス・インフラの提供による更なる日本の成長は未来の不安を希望に変え、新たな成長を切り開く。

#### ④食料安全保障として、

5年間の「農業構造転換集中対策期間」において、別枠予算を確保し、世界トップレベルの植物工場、陸上養殖、衛生情報、AI 解析、センサーなどの先端技術も活用し、輸出促進、稼げる農林水産業を創出する。

#### ⑤エネルギー安全保障として、

国民生活および国内産業を持続させ、さらに立地競争力を強化していくために、エネルギーの安定的で安価な供給が不可欠であり、光電融合技術等による徹底した省エネ、燃料転換を進め、次世代革新炉、フュージョンエネルギーの早期の社会実装を目指す。

#### ⑥国土強靱化対策として、

来年度の「防災庁」設立に向け準備を加速し、国・自治体によるシミュレーションによるリスクを総点検し、デジタル技術や衛生情報、電磁波、ドローン等も活用しながら、防災インフラ、老朽化したインフラの整備・保全をはじめ、ハード・ソフトの両面で、事前防災・予防保全を徹底する。

#### ⑦健康医療安全保障として、

人口減少・少子高齢化を乗り切るため、超党派かつ有識者も交えた国民会議を設置し、給付付き税額控除の制度設計を含めた税と社会保障の一体改革を議論する。

また、高齢化に対応した医療体制の再構築し、入院だけでなく、外来・在宅医療や介護との連携を含む新しい地域医療構想を策定するとともに、地域での協議を促す。

⑧地域と暮らしをまもるとして、  
地域未来戦略・人口政策・外国人対策・治安、安全の確保。

外交・安全保障、憲法改正・皇室典範改正・昭和100周年など簡単にまとめ説明があり、最後に、「事独り断む可からず。必ず衆と与に宜しく論ふ可し」「ことひとりさだむべからず。かならずもろともとともによろしくあげつらふべし」と結んで頂いた。

第219回国会における、高市早苗内閣総理大臣の所信表明演説のポイントであったが、本市にとってどこが一番関わりあるのか考察してみると、2点が挙げられるのではないかと。

1つは、食料安全保障の中の陸上養殖で、「しまんと海藻エコイノベーション共創拠点(通称:しまのぼ)」の取り組みをより一層に強固に推進しなければならないこと。

2つは、国土強靱化対策の中の、「国・自治体によるシミュレーションによりリスクを総点検」(南海トラフ地震等の国難級の災害に対して)をしなければならないこと。

### 【研修風景】

(内閣官房副長官 尾崎正直 衆議院議員)



(説明を受ける四万十市職員と議員)



## 2 東京都港区役所

### 【研修日時】

令和7年11月12日(水) 10:00~11:30

### 【研修場所】

東京都港区役所(住所:〒105-8511 東京都港区芝公園1丁目5-25)

### 【講師】

港区企画経営部企画課 全国連携推進担当係長・企業連携推進担当係長 兼務 企画担当係長 兼務  
杉山 和寛 様

### 【目的・内容】

四万十市は関係人口・交流人口の強化へ向かっている。そんな中で、港区は全国各地とのつながり活かした取組を行っている。また以前に市産材活用を活かした連携協定を結んでいた過去実績もあり、都市部と本市とのつながりの強化に向け視察を行った。

### 【報告者】

寺尾 真吾

### 【報告内容】

#### 1 概要

はじめに、港区は東京23区の中で12番目の広さを持つ区(20.36km<sup>2</sup>)。全国1位として、昼間の人口約97万人、大使館の数81カ国、主要な民間放送テレビ局の本社5局、飲食店営業数7,233店など、多種多様な人が行き交う交流の場となった区となっている。

そのため、平成28年4月に全国連携を推進する専管組織を設置し「港区と全国各地の自治体がともに成長・発展し、共存・共栄を図る」を基本目標の第1に掲げ連携を推進する。

視察では多種多様な連携事例の説明を受け、本市との連携を探った。本市との関係では港区は新橋駅のSL広場にて物産展を行う際に、毎年声掛けをいただき地元事業者の出展を行っている実績がある。

そのため、この出展強化や本市が取組強化を考えているワーケーションによる関係人口強化、市産材の都市部での活用を見直すことはできないかなど話し合われた。

#### 2 視察調査事項所見

多種多様な事例として、和歌山市への災害支援、福島県いわき市とのこどもの交流事業や廃校活用、港区商店街と阿波市とのにぎわい創出、その他再エネ、マルシェなどとあった。

四万十市は以前に市産材による連携協定を結んだ経過もあり、連携市の1つとなっている。市産材については距離的課題が解決できず、また連携に関する毎年の協力金もあり協定を破棄した経過があるが、当時はまだ環境贈与税や公共施設への木材利用の促進などがなかった時代であったため、理解する。

しかし、今は木材利用を促進する時代となっているため、いくつかの市町で協定を進めている動きもある。四万十市はヒノキの森林面積では日本一と言える。

この資源を都市部でも一部使ってもらい、単に林業振興ということではなく、四万十ヒノキを通した本市のPRができないかと考えた。これは港区に限ったことではないため、都市部との関係強化として今後活かしていきたい。

次に四万十市はワーケーション(ワーク×バケーション)、本市の自然環境や住みやすい環境を活かした仕事と充実した休息を得られる場所の強化を目指している。

港区は区内事業者と連自治体のワーケーションを促進しており、互いのメリットを活かした関係人口・交流人口の強化を図っている。本市は来年度の事業としてワーケーションを推進するため、本視察によってお声がけできる関係を築けたことは大きいと考える。

最後に SL 広場等での各地物産品の出展も今後も継続したいという話をする中で、港区からは四万十市の情報を伝える窓口を定めていないこともあり、明確に担当課を決めることで、組織としての対応強化につながる話となった。

私たちの町が人口減少、高齢化により経済縮小する中において、広域的な視点を持って、都市部との交流を図ることの意義を再度確認した。なお、この日は香川県小豆島の土庄町が区役所内にて物産展のため出展しており、効果を伺ったところ、とても前向きなご意見があった。本市も一度取り組んでみてはと考える。

## 【視察風景】

(連携事例の説明と質疑応答)



(港区役所内での物産展)



### 3 TSUTAYA BOOKSTORE MARUNOUCHI

#### 【研修日時】

令和7年11月12日(水) 14:00~16:00

#### 【研修場所】

TSUTAYA BOOKSTORE MARUNOUCHI

(住所: 〒100-6304 東京都千代田区丸の内2丁目4-1 丸の内ビルディング 3F・4F)

#### 【講師】

カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社

[SHARE LOUNGE事業本部]

本部長 川口 彩 様

部長 渡邊 匠 様、部長 仲宗根 亮 様

事業企画部 出店・営業企画 中村 智也 様

#### 【目的・内容】

山下市長の公約にコワーキングスペース整備を通し交流・関係人口の創出を目指すことがあることから、日本でも業界トップに入る民間企業であるカルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社の行っている新たな生活提案型施設「SHARE LOUNGE」の公共空間への活用の可能性調査を行った。

#### 【報告者】

鳥谷 恵生

#### 【報告内容】

##### 1. 視察概要

カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社(以下、CCC)は、「カルチュア・インフラをつくっていくカンパニー」を掲げ、TSUTAYA や蔦屋書店といったプラットフォームを通じて、人々の暮らしを豊かにする提案を行っている。

今回の視察では、同社が展開する新たな業態「SHARE LOUNGE(シェアラウンジ)」を中心に、その事業モデルと地域活性化への貢献について調査を行った。

#### 会社概要(2023年3月31日時点)

- 社名: カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社
- 創業: 1983年3月24日
- 資本金等: 25,397百万円
- 売上高(連結): 108,677百万円
- 本社: 東京都渋谷区南平台町 16-17 渋谷ガーデンタワー

##### 2. SHARE LOUNGE(シェアラウンジ)の事業内容

SHARE LOUNGEとは、これからの時代を担う「**クリエイティブ・クラス**」をターゲットに、刺激やアイデアが生まれる場所を提供する、時間制のラウンジスペースのこと。

※**クリエイティブ・クラス**とは: **新しいアイデアや技術を創造し、経済成長をけん引する知識労働者や専門職の層のことを指す。また、課題に対する新しい解決策や、既存のものを改良して新しい価値を創出することも含む。**

(シェアラウンジの一例)



### 主な特徴とサービス

- ①柔軟な利用形態:集中できるワークスペース(オフィス)としての機能と、リラックスできるカフェとしての機能を両立している。
- ②利便性の高いシステム:専用アプリで空席確認、予約、決済(スマートチェックイン)が可能で、アプリ決済時には料金が10%OFFとなる特典がある。
- ③充実した設備:Wi-Fi、電源、Web 会議スペースに加え、フリードリンク・フリースナック、そして書店運営のノウハウを活かしたBOOK ライブラリーが用意されている。
- ④多様な料金プラン:**ドロップイン**(60分 1,100円~)から1日利用、月額利用のプレミアムメンバーまで、用途に合わせた選択が可能となっている。

※ドロップインとは:予約なし、飛び込みでも利用可能なことを指す。

### 3. 視察の所見と今後の展望

CCCは、2024年12月時点で国内外に計39店舗(国内36、海外3)を展開しており、将来的には100店舗を目指している。

特に注目すべきは、単なる「場所の提供」ではないところであり、全国自治体でも**コワーキングスペース**を整備している事例は見られるが、ただ単に机や椅子を配置し、Wi-Fiを利用できるだけのようなところも見受けられ、快適に施設利用ができる配慮が欠けている場所もある。

しかしながらCCCの場合は、独自のノウハウを生かし「本に囲まれた知的な刺激」や「居心地の良さ」といった付加価値をデザインしているところが、利用者の増加につながっているポイントだと思った。

本市においても、公共施設の再整備や駅周辺の活性化を検討する際、民間企業の高い企画力と「生活提案」のノウハウを導入することは、市民の利便性向上や新たな交流人口の創出に極めて有効であると感じた。

特に、多様な世代が利用できる「コミュニティ書店」としての側面や、若年層・ワーカーの呼び込みにつながる仕組みについては、今後の施政における大きなヒントになり得ると考える。

※コワーキングスペースとは:様々な業種・職種の人々が「共に働く」場所のことを指す。

#### 4 防災体験学習施設 そなエリア東京

##### 【研修日時】

令和7年11月13日（木）9：45～11：10

##### 【研修場所】

防災体験学習施設 そなエリア東京

（住所：〒住所：〒135-0063 東京都江東区有明3丁目8-35）

##### 【目的・内容】

地震災害後の支援が少ない時間を生き抜く知恵を学ぶ防災体験学習ツアー「東京直下72h TOUR」を中心とした防災体験学習と館内見学を行う。

##### 【報告者】

前田 和哉

##### 【報告内容】

そなエリア東京は、内閣府・防災担当が整備した日本最大級の防災体験学習施設であり、首都直下型地震を想定した「72時間（3日間）を生き抜く」知識を疑似災害体験などにより学ぶことを目的としている。館内では被災地を再現したジオラマ展示や、避難所運営などを通じて防災意識を高めることができた。

#### 1 体験内容（東京直下72h TOUR）

##### ①【発災直後のまちを歩き避難する】

首都直下型地震で倒壊した建物や車などが再現された街を、貸与されたタブレットを片手に歩き、避難経路や行動を学ぶ体験ツアー。タブレットの問いに答えながら最善の方法を探り避難先を目指す。

##### ②【一時避難・避難所運営】

避難場所の公園に到着、家族に災害伝言ダイヤルでの連絡。体育館での避難所運営では段ボールベット、簡易トイレ、授乳スペースなどを再現。避難者はプライバシーや衛生面などによりストレスを抱える可能性が高く、そうした避難者支援の運営方法を実際に学べる。

##### ③【防災学習コーナー】

一人ひとりの基本的備えや飛散防止フィルム、非常用グッズ、発災直後の自助・共助による救出資機材など、72時間を生き抜く術を学ぶ。

##### ④【オペレーションルーム見学】

首都直下地震発生時に国の緊急災害現地対策本部が設置される「オペレーションルーム」を窓越しに見学。当日、実際にロールプレイング等の訓練が実施されており、通信・指令設備を備えた国の防災司令塔を見ることができた。

##### ⑤【本市への応用】

今回の想定が首都直下地震ではあるが、本市の最大の懸念である南海トラフ大地震を踏まえ、避難所運営や自助・共助による救出など、多くの点で応用可能である。

また、災害時の実際の国の緊急災害現地対策本部が設置される「オペレーションルーム」を見学し、その大きさや規模感は、映画の世界ではない日本の災害防災拠点のスケールであることに、さらに驚かされた。

本市周辺において同規模の設備を整備することは勿論できないが、小規模であっても市対策本部や議会も加わった実践的なシミュレーション訓練を繰り返し行うことが重要だと感じた。

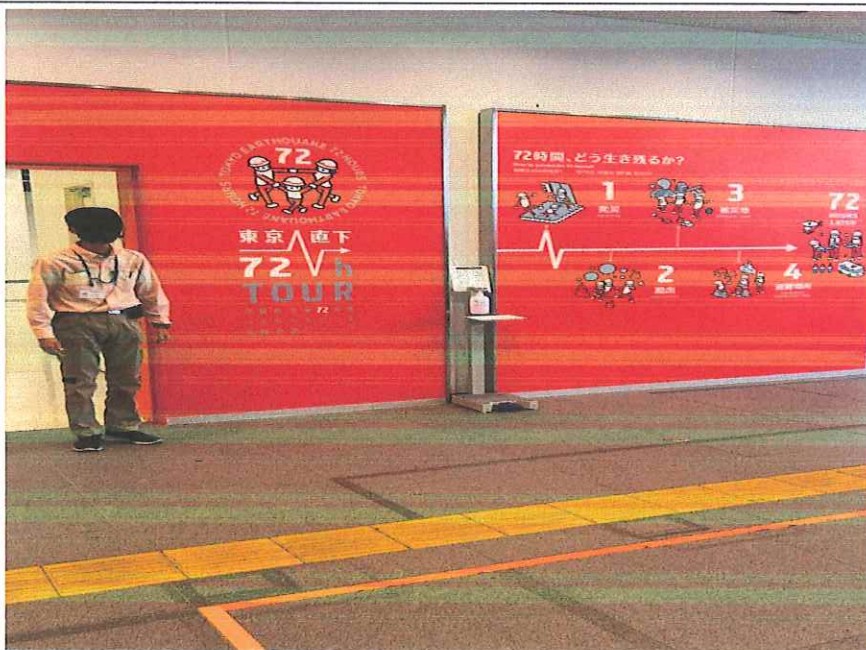
【視察風景】



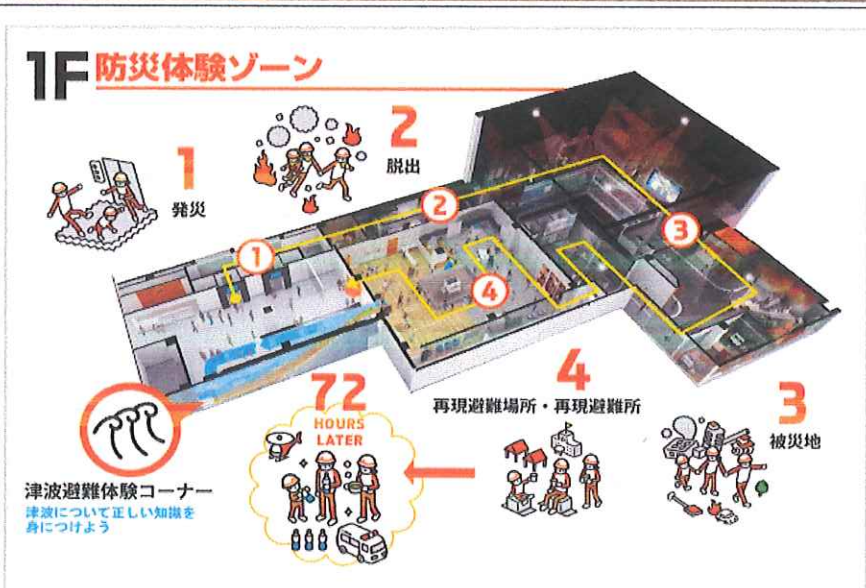
場所：東京臨海広域防災公園  
 防災体験学習施設  
 そなエリア東京

市民クラブ 6名  
 公明 2名

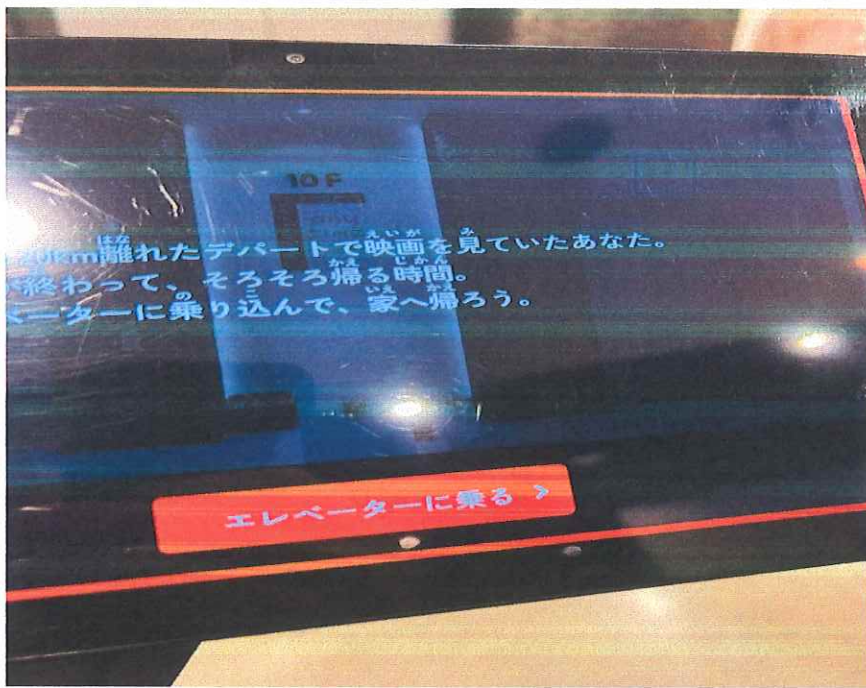
撮影日 R7年 11月 13日



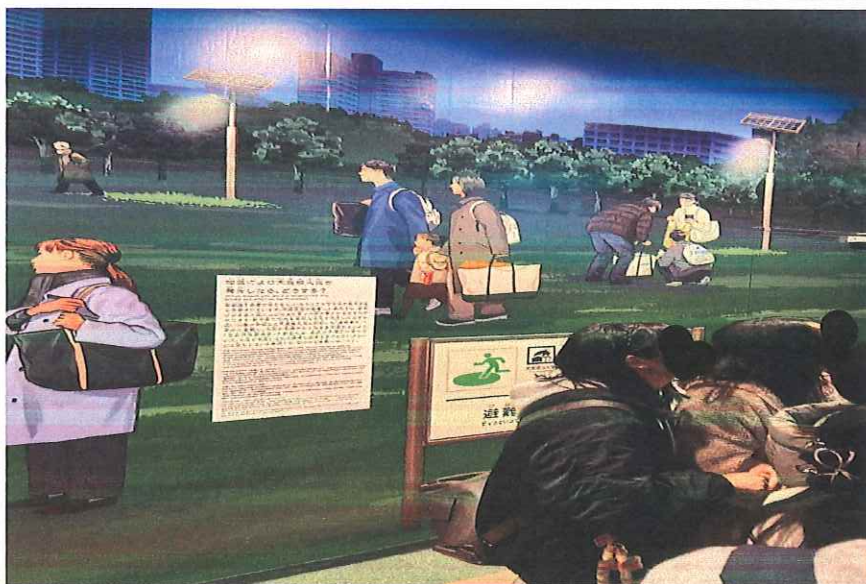
「東京直下 72hTOUR」を中心とした防災体験学習施設



各自、タブレット端末を使用してクイズ形式で答えながら避難を行う。



首都直下型地震、エレベーターに乗り込むと震度7の地震が発生、緊急停止する。その後、停電した通路を避難口誘導灯と放送をたよりに市街地に出ると、商店街や住宅地が被災しており、タブレットの指示に従って避難場所を目指す。



避難場所の公園に到着し、怪我もなく避難はできた。しかし、携帯電話も不通になり家族との連絡が付かない。災害用伝言ダイヤルは何番か？

答えは、171番＋最後に電話番号を入力



学校の体育館に設置された避難所

「お店の水はもう売り切れた」「公園の災害時給水ステーションが利用可」などの情報。

乳飲み子を抱えたお母さん、授乳スペースがない。また、周りの方に目をやると、年齢や性別の違う様々な方が避難して来ている。プライバシーや衛生面、価値観などで強いストレスを感じる可能性がある。それぞれを観察し必要な声掛けや、支援を行う必要がある。



## 2F 防災学習ゾーン

基本の備え、災害の状況やタイミング合わせた備えを一人ひとりが考えよう。

割れる前提でガラス対策を

飛散防止フィルムやレースやカーテンをひいて、飛散を防ぐ。

トイレ確保は、3日分

4～6時間以内に、67%の方が行きたくなる。

家族会議を行い、別々の場所で避難しても、集合場所や避難場所を決めておく。



様々な避難者のケースバイケースの対応法

(例)目がわるい人

予備のメガネを手の届くところに置いておく。小さく折りたためるメガネを持ち出し袋に入れておく。

(例)オムツを使っている人

防災グッズに用意しておく。防臭袋やオムツ用ごみ袋。肌荒れ対策や保湿剤、ウエットティッシュも準備。





地震発生時の国の拠点、オペレーションルーム(2F、見学窓)

映画、シンゴジラの撮影にも使用した巨大な空間、2016年に公開されたヒット作はゴジラ襲来と言う未曾有の危機に首相官邸地下・危機管理センターとして撮影。

色々な分野の専門家が集まり作戦を練り上げるシーンは、ここで制作されたとのこと。



首都直下型地震の発生時に「緊急災害現地対策本部」として使用されるオペレーションルーム。

この日は、実際の半分を使用し、ロールプレイング訓練等が実施されていた。



都内で震度6強以上の地震が発生した場合などの国の対応方針



防災用品(発災直後)  
 自助、共助での使用資機材  
 油圧ジャッキ  
 平バー  
 スプレッター  
 油圧シリンダー



映像ホール  
 「東京マグニチュード8.0」を上映  
 各地の児童防火クラブ等の団体が首にバンダナを付けて学習に来ていた。



様々な災害での「あのとき役立つ私の知恵」  
 東日本震災、阪神淡路大震災、熊本地震などで役立つ教訓が書かれていた。



屋上庭園と国土交通省の災害派遣チーム TEC-FORCE の活動紹介

屋上は緑化されており、自由に見学やお弁当など食べて休憩できる。